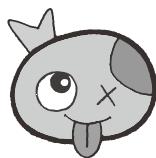




特定非営利活動法人
**子どもデザイン
教室**
Children Design Education



小規模住居型児童養育事業
**子どもサポート
ホーム**
Children Support Home
(個人事業)

2023-2024 2023年度 活動報告書
2024年度 活動計画書

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1
TEL 06-6698-4351 · FAX 06-6698-4352
MAIL wada@c0d0e.com · URL c0d0e.com

2024年7月1日 第2版発行

目 次

2023年度 活動報告書

学びの支援：子どもデザイン教室.....	03
学びの支援：デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO.....	06
お金の支援：子どもデザイン基金.....	07
暮らしの支援：こどもサポートホーム.....	09
決算報告書・貸借対照表・受講生数の推移・事業収支の推移.....	14

2024年度 活動計画書

学びの支援：子どもデザイン教室.....	17
学びの支援：デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO.....	19
お金の支援：子どもデザイン基金.....	20
暮らしの支援：こどもサポートホーム.....	21
子どもデザイン教室の活動で誰がどう変わるのか？.....	22
予算計画書.....	23

2023年度 活動報告書

学びの支援：子どもデザイン教室

主幹：和田隆博／久保 晶・出口奈津子・島津侑花・井上翔一

1. 事業概要

2023年度は、絵や工作を作ることで自己表現力を高める「絵と工作レッスン」と、キャラクター商品を製作販売することで自己肯定感を高める「こどキャラレッスン」の、2つのレッスンを実施しました。加えて、クリスマス会（子どもデザイン基金欄に後述）や、発表会などの楽しいイベントも実施しました。

他にも、子どもデザイン教室の次世代メンバーによる「デザイン国語チーム」は、日本子ども虐待防止学会や講演会での発表を中心に活動しました。また、子どもデザイン教室の2号店である「子どもデザイン教室KYOTO」も活動を開始しました。また、2010年度の法人化当初より試行錯誤を重ねたレッスンの標準化はほぼ完成し、2024年度からは業務の効率化が見込めます。

2. 絵と工作レッスン

(1) 実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間＝4月29日～2024年4月6日
- ・土曜第1・2・3・4週クラス＝12：30～15：30（月1回）
- ・受講の目安＝年長児～小学6年生
- ・月会費＝各5,500円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円



(2) 実施内容

- ・4月＝体験レッスン（社会的養護児童）
- ・5月＝Tシャツを作ろう
- ・6月＝雨傘を作ろう
- ・7月＝水族館を作ろう
- ・8月＝人生ゲームを作ろう
- ・9月＝思い出時計を作ろう
- ・10月＝ハロウィンクッキーを作ろう
- ・11月＝おでかけバッグを作ろう
- ・12月＝キャラ弁を作ろう
- ・2024年1月＝ジオラマ工作を作ろう 前半
- ・2024年2月＝ジオラマ工作を作ろう 後半
- ・2024年3月＝発表会 おとなも絵と工作レッスン

(3) 総括

レッスンは、大別すると以下の3つのタイプに分けられます。それは、①5月のTシャツ作り、6月の雨傘作り、11月のバッグ作りといった、生活で使えるものを製作するタイプのレッスン、②8月のゲーム作り、10月・12月の食べ物作りといった、遊んだり食べたりするタイプのレッスン、③7月の水族館作り、9月の思い出時計作りといった、対話力や経験値を高めるタイプのレッスン、の3つです。レッスンは、第1週と第2週は主に一般家庭児童に、第3週と第4週は主に社会的養護児童に実施しました。レッスンを振り返ると、一般家庭児童は如何なくレッスンを楽しんでいましたが、社会的養護児童はレッスンに困難を抱える場面が多くありました。

その原因は、子どもたちが抱える生育歴の違いにあります。一般家庭児童にとって「表現する＝自分を見せる」とは、誰かに肯定して貰えるというポジティブな心理があるのに対し、社会的養護児童にとっての「表現する＝自分を見せること」は、誰かに否定されるかもしれないというネガティブな心理があるようでした。そのことが社会的養護児童の創作意欲を減退させたり、攻撃的や否定的な言葉で自分を守り、無意識に建てる防御壁の中に閉じこもっているようでした。試行錯誤の結果、自己肯定感が低い社会的養護児童は、何か課題を課すレッスンよりも、目的がなく自由にもの作りが楽しめるレッスンの方が、自己肯定感は高まるようでした。そこで、年度末の2ヶ月は、自由奔放に創作活動に取り組むレッスンを2回連続で実施した所、子どもたちは知的好奇心のアンテナを高め、開放感一杯のレッスンになりました。この2回連続というのは、1回目でもうまく行かなくても、2回目でやり直しができる精神的余裕をもたらすようでした。

2023年度を締めくくる発表会を2024年3月に実施しました。発表会は、子どもと保護者が二人ペアになり、絵に描いたキャラクターを粘土で立体にし、次にそのキャラクターを主人公に物語を創作し、最後に発表する内容でした。保護者は、子どもデザイン教室のレッスンを実際に体験し、また、子どもとの2人の会話の時間を楽しみました。絵、工作、文字、言葉といったあらゆる表現の手段を使って、創作の楽しさを満喫しました。

本来なら発表会は、全受講生が体験すべきでした。しかし、社会的養護児童にとっての発表会はストレスでしかなく、そうしたストレスをおとなが理由をつけて押し付けるのは福祉か?という疑問と、施設職員さんの参加がどうしても難しいという事情があったため、社会的養護児童の発表会は実施しませんでした。社会的資源が少ない社会的養護児童が意見表明力を身につけることは、その後の人生において大変重要です。レッスンでは、そうした生きる力を遊び感覚で習得して貰おうと企画してきましたが、社会的養護児童が何か挑戦をするときには見守ってくるおとなが必要、そんな課題が明らかになった1年でした。

(4)評価

保護者の方から寄せられてメッセージをご紹介します。

「レッスンから帰ってくると、楽しかったよ、と説明してくれますが、〈今回の発表会の〉参加でいつもこんな風にしてるんだなーと、最後に知れて良かったです。〈絵本の良き聞かせの〉くまの校長先生、私が涙こぼれそうに感動しました。自分の意思を表明することと、他者を受け入れること、両立はなかなか難しい(私もできないな)ですよね。沢山の経験をして、優しく強く育って欲しいなと思います」

「子ども達はこの一年、たかさんのレッスンで表現することの楽しさをたくさん体感させて戴きました。今迄は制作の話なんてしてくれなかつた二人が私にここを工夫したんだよ、ここがいいでしょと説明してくれるようになり大きく成長しました。なんと学校の制作物に対しても制作の話をしてくれるようになり、とても嬉しくなりました」

3. 出張絵と工作レッスン

(1)実施要項

- ・児童養護施設に出張して「絵と工作レッスン」と同じく、自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間=5月27日~2024年3月17日
- ・日曜第3週クラス=13:30~15:30 (月1回)
- ・受講の目安=年長児~小学6年生
- ・月会費=社会的養護児童専用につき無料・年会費=3,000円



(2)実施内容

- ・5月=Tシャツを作ろう
- ・6月=雨傘を作ろう
- ・7月=水族館を作ろう
- ・8月=人生ゲームを作ろう
- ・9月=思い出時計を作ろう
- ・10月=ハロウィンクッキーを作ろう
- ・11月=おでかけバッグを作ろう
- ・2024年1月=ジオラマ工作を作ろう 前半
- ・2024年3月=ペアで絵と工作レッスン・ジオラマ工作を作ろう 後半

(3)総括

「出張絵と工作レッスン」は、児童養護施設田島童園にお伺いする社会的養護児童専用のレッスンでした。内容は「絵と工作レッスン」と基本的に同じカリキュラムでしたが、総じて「絵と工作レッスン」の社会的養護児童よりは前向きに取り組みました。子ども一人一人の違いはありますが、その理由の一つに施設職員さんの人数の差が挙げられます。「絵と工作レッスン」も職員さんのサポートはありますが、「出張絵と工作レッスン」は施設にお伺いして実施するため、受講生一人当たりの職員さんの人数が違います。改めて保護者のサポートの重要性を感じました。

また、「出張絵と工作レッスン」は受講生にとってホーム(私たちはアウェイ)で実施したため、安心してレッスンに取り組むことができました。これらの点からも、レッスン内容は勿論大切ですが、子どもを支援するおとなの存在、子どもを取り巻く環境のあり様も、子どもの意見表明を育てる重要な要因であると考えました。

4. こどキャラレッスン

(1)実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を主張する力を育てます。商品を作り、販売する楽しさを経験します。
- ・期間=5月11日～2024年3月21日
- ・木曜クラス=17：30～19：00（月4回）
- ・土曜クラス=9：30～11：00（月4回）
- ・目安=小学生中学年～高校生
- ・月会費=11,000円（社会的養護児童は無料）・年会費=3,000円



(2)実施内容

- ・5月=キャラクターをデザインしよう
- ・6月=粘土でデザインしよう
- ・7月=フェルトでデザインしよう
- ・8月=お店をデザインしよう
- ・9月=こどキャラショップをデザインしよう
- ・10月=クッキーでデザインしよう・絵本の世界をデザインしよう
- ・11月=絵本の世界をデザインしよう
- ・12月=キャラ弁をデザインしよう・オリジナル商品をデザインしよう
- ・2023年1月=レジンでデザインしよう
- ・2023年2月=オリジナル商品をデザインしよう
- ・2023年3月=こどキャラショップをデザインしよう



(3)総括

ピンバッジ・マスコット人形・絵本などのキャラクター商品にしました。それを夏休み・春休みの2回、子どもデザイン教室で販売し、自分のお小遣いにしました。これは、遊び感覚で自分の気持ちや意見を伝える力（自己主張力）と生きる力（自己肯定感）を育てる社会体験型のレッスンでした。本レッスンは、受講生が長年継続して受講しており、受講生が安心してその技量を発揮できる安定感のあるレッスンでした。実際、受講生の熱意と努力から生まれる創作物の品質の高さは、目を見張るものがありました。

本レッスンは、3分の4が一般家庭児童であることから、教室運営を支える資金創出の目的もあります。しかし、一方で本来目的の社会的養護児童の参加が少ないという問題がありました。その理由は、週一回という頻度の点と、長年のレッスン故にレッスンの難易度が高まり、安易に新入生が入りづらい点にあります。別途実施している初学者向けの「絵と工作レッスン」や「出張絵と工作レッスン」は、こうした問題を解決するための施策です。

(4)発表会の収支（販売会収入）

- ①9月23日 第1回発表会「こどキャラショップ&カフェ」
 - ・収入=60,500円
 - ・支出=60,500円 画材費 11,570円
支援基金費 48,930円（受講生に配分）
- ②2024年3月20日 第3回発表会「こどキャラショップ&カフェ」
 - ・収入=58,100円
 - ・支出=58,100円 画材費 11,600円
支援基金費 46,500円（受講生に配分）



(5)評価

発表会の後、保護者の方から寄せられてメッセージをご紹介します。

「これまで本当にありがとうございました。レッスンの中で、沢山の学びがあったと思います。ご指導、ありがとうございました。子どもたちにはこれから先も、自分の気持ちを大切に、いろんなことに挑戦していってもらいたいと思います」

「学校では学べない、子供の心が育まれるレッスンで、いつも本当にありがとうございます」

「小3から始めて中2の現在まで、とてもお世話になりました。自分でデザインしたものを商品化し、売れる喜び。これは何事にも変え難い経験をさせていただいたなと思います。毎月の写真付きのお手紙、ファイリングしているのですが2冊になり、よい思い出です。本当にお世話になりました」

5. 造形ワークショップ

大阪府立大学院の修士研究論文として造形ワークショップ「へんてこおばけをつくろう」を実施しました。これは創作活動と子どもの意見表明の関係を明らかにするための調査研究でした。実施月日・実施場所・参加人数は以下の通りです。こうしたワークショップをまた実施してほしいと大変好評でした。

- ・4月3日 南さくら園 12名
- ・4月4日 南さくら園 8名
- ・4月6日 入舟寮 12名
- ・4月15日 入舟寮 11名
- ・7月31日 リアン東さくら 8名
- ・8月22日 助松寮 9名



6. 事業報告

(1)レッスン日数=105日／2022年度103日／2022年度比101%

(2)レッスン回数=149回／2022年度161回／2022年度比92%

(3)受講人数=117人（一般家庭児童31人・社会的養護児童86人）2022年度76人／2022年度比154%

(4)受講延べ人数=1,125人（一般家庭児童719人・社会的養護児童406人）／2022年度1,226人／2022年度比92%

(5)満足度（5段階評価で4以上の割合）=99%／2022年度96%／2022年度比103%

(6)収入（会費収入）=2,425,370円／2022年度2,061,300円／2022年度比117%

学びの支援：デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO

主幹：伊藤嘉余子・藤井健志・井上翔一

1. レッスン・ワークショップ

大阪公立大学の伊藤嘉余子先生、大阪府立花園高等学校の藤井健志先生、京都市立京都奏和高等学校の井上翔一先生、子どもデザイン教室の次世代を担う3人による「デザイン国語チーム」は、国語と福祉とデザインの各領域の特性をコラボレーションさせ、子どもたちのセルフアドボカシーカーを支援する言葉のレッスンとワークショップを企画・開催し、その成果を学会や講演会で発表しました。2023年度開催した「デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO」のレッスン・ワークショップは以下の通りです。



- ・5月18日 「子どものセルフアドボカシーとそれを支える養育者としての3つだけの『きく』」を京都市の児童養護施設の職員研修で開催。
- ・6月17日 デザイン国語新レッスン「アシストマークをデザインしよう！」を子どもデザイン教室KYOTOで開催。
- ・8月9日 「こどキャラレッスン（プラバンキーホルダーブル）」を京都市の母子生活支援施設のパーティ会場で開催。
- ・9月10日 デザイン国語新レッスン「アシストマークをデザインしよう！」を吹田市の児童養護施設で開催。
- ・10月10日 「子どもの声をきく養育者とは？～子どもの声にアクセスできる「ききかた」を考える～」を愛媛県中予地区児童養護施設連盟研修会の職員研修で開催。
- ・10月28日 「おばけつり」を京都市の母子生活支援施設のホームカミングパーティで開催。
- ・11月14日 「子どもに伝えたい5つのきくとおとなが心がけたい3つのきく」を高校の総合的な探究の時間を運営される先生方の研究会で講演とワークショップを開催。
- ・11月18日 デザイン国語新レッスン「2つで1つ！しあわせピンバッヂ」を京都市の母子生活支援施設で開催。
- ・3月29日 「へんてこキャラクターをデザインしよう」を子どもデザイン教室KYOTOで開催。

2. 学会発表・講演会

2023年度開催した「デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO」の学会発表・講演会は以下の通りです。

- ・11月26日 「子どもの声をきける養育者とは？かきくけこそだて論の実践ワークショップ」を日本子ども虐待防止学会しが大会で大会企画ワークショップとして開催。
- ・11月30日 「子どもに伝えたい5つのきくとおとなが心がけたい3つのきく」を大阪弁護士会館で講演。

1. 事業概要

子どもデザイン基金事業は、企業様・団体様・個人様との協同による資金支援事業です。福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」の実施、企業様との協同、活動説明会「こどカフェ」の実施、賛助会員「キッズソポーター」の募集をし、2023年度も暖かいご寄付・ご寄贈・ご支援を頂きました。

2. ご寄付部門

(1)企業寄付

輸出梱包様*、泉州様、ヤフービジネスサービス様、ヤフー様、フォントワークス様、和敬学園様、風の街様、LUSSO様、イーサポート様、ベネフィットワン様、ダイゴー様、四恩学園様、摂津金属工業所様、H2Oサンタ様（阪急阪神ホールディングス様）、551蓬莱様、大阪東ロータリークラブ様、〈ご寄付月順〉14社様よりご寄付を頂きました。また、実質的なご寄付者は個人様ですが、ヤフー様に児童福祉のキャンペーンを実施頂き、ヤフーネット基金を通じて2016年度から総額で611,833円、ご寄付者数2,077人になっています（2024年5月14日現在）。

*輸出梱包様は継続会員のため、個人寄付として計上。

(2)個人寄付

年会費会員58名様、個人寄付会員44名様、継続会員19名様の合計121名様*からご寄付を頂きました。6月に2023年度報告書・2023年度計画書を150冊手渡し・郵送し、多くの皆様方からご寄付を頂きました。とりわけ本年度は子どもデザイン教室KYOTO開設に伴い、41名（*に重複）の方からご寄付を頂きました。沢山のお志ある皆様に支えられていることに深く感謝申し上げます。

(3)会員数=個人121名様・法人14社様／2022年度 個人102名様・法人16社様／2022年度比114%

(4)収入（寄付金収入）=2,218,824円／2022年度2,498,820円／2022年度比88%

3. 助成金部門

(1)助成金

子どもデザイン教室KYOTOの運営資金として公益社団法人京都地域創生基金様より助成金30万円を頂きました。子どもデザイン教室KYOTOは待望の教室2号店です。助成金でMacBook Airコンピュータなどを購入しました。

(2)収入（補助金収入）=300,000円／2022年度1,617,600円／2022年度比18%

4. こどキャラ部門

(1)こどキャラ

こどキャラは個人様・法人様と協同して、社会的養護児童の自立・事業資金を創出する福祉型キャラクタービジネスです。2023年度はこどキャラ名刺の追加印刷をしました。

(2)収入（事業収入）=212,150円／2022年度401,010円／2022年度比52%

(3)内訳=自立資金155,000円（児童養護施設に寄付）・事業資金57,150円（販売管理費を含む）

5. 企業協賛部門

(1)パッパ食堂

7月2日・8月6日、大阪ガス様のご支援で「絵と工作レッスン」のメンバー18名と西本町のイタリア料理店トラットリア・パッパで実施の「体験食事会・パッパ食堂」に行きました。これはオーナーの松本シェフが食で子どもたちを笑顔にしたいという社会貢献事業です。松本シェフ始めスタッフの皆さんには貴重な体験の機会を頂き、本当にありがとうございました。

(2)阪急百貨店様でプチトーク

7月29日、阪急百貨店9階祝祭広場で『子どもの声を「きく」セルフレッスン』と題し、プチトークをしました。今回、伝えたかったことは、子どもの声を聴くおとなを増やすことです。人に話すと自分自身のめざす道も見えてきます。多くの方に聴いて頂けて嬉しかったです。



(3) 武蔵大学様・高槻ロータリークラブ様・大阪東ロータリークラブ様で講演会

11月7日に東京・武蔵大学様、11月22日に高槻ロータリークラブ様、2024年3月7日に大阪東ロータリークラブ様で講演をしました。講演では、アートとデザインで高める社会的養護児童の自己肯定感と意見表明力についてお話ししました。社会的養護児童の現状、子どもデザイン教室の取り組み、子どもの意見表明と親の傾聴姿勢、ご家庭でできるアートワークのお話もお話ししました。

(4) 大阪東ロータリークラブ様のご尽力でクリスマス会を実施

12月17日、大阪東ロータリークラブ様のご支援で子どもデザイン教室最大のイベント、クリスマス会をキッズプラザおおさかで実施しました。大阪東ロータリークラブ様は事前のご準備から当日のマクドナルドの手配、沢山のプレゼントなど、子どもたちのために力を尽くしてくださいました。本当にありがとうございました。子どもデザイン教室からは受講生51名・ボランティアスタッフ15名の合計66名が参加しました。

こうした大規模なイベントは、準備やリスクが代表に集中しているため、万一の際の代替が利きません。そこで、万一の際のリスクを回避するために、2024年度からは教室内で各クラス分散開催する予定です。全受講生が集まる唯一の機会でしたが、致し方ありません。

6. ご寄贈部門

(1)ご寄贈

フードバンク大阪様を始め、4名様・3法人の方からお菓子や画材、フォントのご寄贈を頂きました。

(2)収入=131,520円相当／2022年度192,100円相当／2022年度比 68%

7. 理事会・広報部門

(1)理事会

2カ月に1回、理事会を実施し、中期計画や長期計画を話し合いました。

回数=6回（総会を含む）／延べ参加人数=37名

(2)こどカフェ

子どもデザイン教室の活動内容、社会的養護児童の問題、意見表明と創作活動の因果関係などをお話する活動説明会リアルこどカフェを実施しました。タイトルにリアルを冠した理由は、ご来場の皆様にミックスジュースを振る舞い、まるで本物のカフェのような和やかな雰囲気で実施したいからです。

回数=5回（個別面談を含む）／延べ参加人数=9名

(3)取材

2023年度は取材活動はありませんでした。

(4)ホームページ

2020年度より追々ホームページの改訂を始めましたが、作業時間がなく、未だに完成の目処が立っていません。

(5)広報

Facebook・Instagram・X・LINEなどのSNS、ホームページ、ニュースメールを通じて子どもデザイン教室の活動を紹介しました。ニュースメールは毎回約400通の配信をし、約50%以上の開封率を保っています。熱心にご愛読くださる方が多く、嬉しく感じています。



1. 子どもサポートホーム事業

子どもサポートホーム事業は、様々な事情で社会的養護児童を里親として家庭に受け入れる24時間365日の養育支援です。小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を運営し、2023年度は中学生から小学生までの5人の子どもを育てています。この報告書では2023年度1年間、ニュースメールでお届けしたものを月別に振り返ります。

2. 4月：親に懲戒権はありません。

2022年12月、懲戒権の削除と体罰の禁止を定めた民法改正案が成立しました。「しつけのためと思っても、身体に何らかの苦痛や不快感を意図的にもたらす行為（罰）は、どんなに軽いものであっても体罰であり、法律で禁止されます＊」過日、子どもの養育に懲戒がいらない好例がありました。子ども同士が喧嘩を始め、一方の子どもの悪態が止まらず、物は投げるは、私に暴力を振るうはで往生しました。しかし、そのとき私は冷静に対応でき、他の子らに退避するようにいい、投げられる物は遠ざけ、私への暴力は放置しました。



心掛けたのはその子と対峙するのではなく、その子の側に立って話を訊くことです。私が意見するのではなく「何があったのか？どうしたかったのか？なぜそうしたのか？」と子どもの意見を聴きました。すると、驚く程素直に自分は何に腹が立ったのか、どうしたかったのか、反省を口にし、相手に謝りたいと話してくれました。偶然うまくいったのかもしれません、こうして懲戒によらない養育は可能です。ついイラ！としては後で自己嫌悪に陥っていた私、日々工夫と試行錯誤の繰り返しでした。

＊厚生労働省（2020）体罰等によらない子育ての推進に関する検討会『体罰等によらない子育てのために』より

3. 5月：「あなた変わりなさい」ではなく

大学院のゼミでSST（社会的技能訓練）が話題になりました。SSTとは、社会的養護児童の場合、主に社会にててから困らないように対人関係などを訓練をするものです。話題の中で、SSTは「今日の社会福祉の潮流からは廃れている」と聞きました。法律で「子どもは権利の主体」と定義される中で、「あなた、変わりなさい」ではなく、課題のある子どもを受け入れ、家族・施設、地域・学校、行政・法律の各段階で「社会が変わる」のが社会福祉の理念だ、とのお話でした。



なるほどです。しかし、これを実践するのは容易ではありません。誰かの主張を受け入れるということは、周囲との利益相反を招き、やがて衝突が生まれます。また、その主張が到底受け入れがたいものであった場合、社会が許す訳にはいきません。子どもサポートホームでもどの子も課題を抱えています。その課題の根底にある原因を共に掘り下げ、「あなた変わりなさい」ではなく「共に変わりましょう」が最適解なのでしょう。となると他者理解と毎日の自己研鑽が必要です。努力しかありません。

4. 6月：アイラブユーから始めよう

里親は良いことが多い半面、その困難さは生半可ではありません。イライラしムカムカする、気がつけば毎日仏頂面の自分がいます。里親とは醜い自分との闘いです。そんな今、草薙龍瞬箸「反応しない練習」という本をアマゾンオーディブルで聴きました。里親が子どもに「反応しない練習」をしていたら里親失格ですから、私的には「無駄に反応しない練習をする」ということです。第1章、反応する前に理解する、第2章、良い悪いを判断しないなど、観点変更な学びが大きいです。そして聴きながら自分なりの工夫を重ねました。



最近、子どもの対応に苦慮し、しんどいなと思ったとき、スタッフが「アイラブユーから始めよう」と教えてくれました。それは、どんなに呆れる言動でも、その対応をアイラブユーから始めれば、イライラもムカムカもなくなるというものです。例えば、子どもが牛乳を零したとします。一緒に拭こう

といつてもしないとします。これを真に受けてイライラしても毎日は決して愉しくなりません。そこで、代わりに拭いてあげます。何も考えずエンパワーします。目の前にある零れた牛乳という事実だけを理解して行動するのです。

これには代わりに拭いてあげる=良いことをするという意味もあります。良いことをすると気持ちが良くなります。良いことをしない人はこの気持ち良さがないので、損をしているともいえます。良いことをする人は、毎日得ばかりしています。なかなかバッドサイクルから抜け出せない毎日ですが、アイラブユーから始め、出来事の事実だけを理解して、行動する。こうすると無駄な反応がなくなり、心穏やかに過ごせます。このように里親とは私をまつうな人間に向かわせる私の道もあるかのようでした。

5. 7月：楽も苦も含めて人生を「愉しむ」

この夏はシュノーケルなど危険を伴う旅行を考えていました。一人なかなか指示が入らない子がおり、危機管理のために一旦その子をホームに置いていく算段を立てました。これで夏の旅行が楽しめる！料理旅館でのんびりできる！と、ここだけの話、内心とても嬉しくなりました。ところが暫くすると、良心の呵責に耐えられなくなり、そういう選択をした自分が嫌になりました。そうすると止めどなく落ち込んでしまい、全てがどうでもよくなりました。自分は表っ面ほど良い人間ではないので、正直、自分の繊細さに自分で驚きました。

その後、撤回してその子も旅行に連れていくことにすると、程なく元の自分に戻りました。なんだか悪い毒でも飲された気分でした。「自分はこの子の親なんだ」と自分に言い聞かせて、呪文をかけてバランスをとっているのだろうと思いました。面倒だからと誰かを見捨てていったら、止めどない手抜きが始まります。食べ過ぎてお洒落なホテルやレストランで嘔吐しが、飛行機の中でお漏らししが、空港で逃げて行方不明になろうが、どんなに面倒な子でも誰一人置いて行かず、皆で支え合っていくのが家族です。

だからこそ家族の絆は、より強く深ります。行けば行ったでトラブルは必至、到底楽しめる旅にはなりませんが、それも含めて旅、人生は旅なのです。「楽しむ」のは単に樂をすること。楽も苦も含めて人生全てを「愉しむ」。この子との限りある人生を愉しみたいと思いました。



6. 8月：旅の記憶は未来に繋がる

信州長野へ4日間のホーム旅行が終わりました。子どもたちは「もう1泊したい～」と満足いったようでした。確かに山の上の涼しさを経験すると、都会に戻るのがイヤになりました。キッズモンスターは最後の最後まで大暴れでしたが、私も結構スキルを身につけたように思います。こうして家族の絆が深まるのでしょう。旅行中、ある子が「こんな子、家に帰したらええのに！」と私に怒りました。私が「そんなことはしない」と返すと「おとうちゃん、大変やな～ハゲるで」と笑うので「もうハゲてる」と返しました。皆、大爆笑でした。

旅行は人生そのもの。荷物は重いし、しんどいし、初めてのことに挑戦するには勇気が要ります。でもその分、見たこともない景色や、食べたことのないものが味わえ、一つ成長した自分に出会えます。旅行中、私が得てきた旅（人生）の極意を話しました。昭和の年寄りの戯言、今の社会にはそぐわない教えもあります。でも旅先での実体験を交えた話は心に刺さりやすく、「確かにそうやなあ」と納得していました。旅は耐久消費財産と教わりました。この経験や記憶が、ずっと子どもたちの未来にも繋がることを願いました。



7. 9月：「子どもの失敗する権利」って何だ？

62歳。ここ数年で顕著に出来なくなることが増えてきました。物忘れは酷いし、視力は落ちるし、体重は減るし、髪の毛は抜けるし、、、前にネットで自分の寿命を調べたら68才でした。後6年。結構的を得た数字に、そうか、こうやって終わっていくのかと実感します。これまで貧乏性で、あれこれ仕事を詰め込んでは、自分の限界に挑戦してきましたが、最近では子どものことだけに集中しようと考えています。先日久しぶりに子どもの勉強をみていたら、イタリアの下に日本海があつたりするので、もっと子どもの学業に向き合わねばと反省しました。

今は子どもの人権社会です。何を決めるのも、失敗するのも子どもの自由です。どうぞ自由にと言えば良い訳ですから、手抜き親の便利な言い訳になります。私は昭和がデフォルトですから「子どもの失敗する権利」など大いに疑問ですが、関係が希薄な里親子では何もいえません。そうなると幼い頃から苦楽を共にする「時間」が必要になります。聞く聞かないは子ども次第ですが、行く末を照らす先達としては、あれこれ「失敗しない生き方」を伝授するのが親の勤めでしょう。後6年なのですから、子どもたちの記憶に私が生きてきたメソッドを教えたいものです。

8. 10月：子どもの「わがまま」が健全な市民を育てる

10月は大阪府立大学大学院の修論を書いていました。提出なくば退学ですので、何としても提出せねばなりません。にもかかわらず、あれこれ思い悩んでは1日延ばし。ヒリヒリする毎日を過ごしました。そんな折、とびきり素敵なご見解を（しかも注釈文の中から）見つけたので紹介します。まずは予備知識です。子どもの人権は、①生きる権利、②育つ権利、③守られる権利、④参加する権利と4つの原理で成り立っています。この4つの中で、先進国の日本で大きく認識されていないのが、④の「子どもの参加する権利」ではないでしょうか。



「日常生活の中で、子どもと大人が対等な関係になって話をする場面はほとんどない。学校や家庭において、先生と児童や生徒、親と子、という関係は上下関係であることが多い。＊1」「子どもはその衣食住環境において、選択や意思決定の機会がきわめて制限された存在である。＊2」といいます。「子どもの声を聞く」というと、すぐに子どものわがままを許すのかという声があがる。＊3」というのは、多くのおとなとの共通認識ではないでしょうか。しかし、この認識を弁護士の森本志磨子さんは、スパッ！と一刀両断に切って捨てられます。それは、

「わがままも含めた子どもの主張は、表出されるのが当然であり、それらが大切に扱われる過程は、子どもの成長（特に、自己肯定感や意欲等の醸成）にとって必須であるとの発想の転換が必要である。苦情の表出や意見の対立は、市民にとって成長するための過程であり、財産である。自分の権利と他人の権利との衝突を調整していく必要性や、そのためのルールを子どもに考えさせることが大切である。＊4」とのことです。いかがでしょうか？子どもの主張は健全な市民を育てるための成長の過程！私は素晴らしい理論武装を手に入れた思いです。修論は私の知見を育ってくれました。

*1 渡邊文（2013）「子どもと大人の対話」『臨床哲学のメチエ』大阪大学

*2 金子真理子（2015）「子どもの「意見表明権」の社会的意義」『子ども社会研究』日本子ども社会学会

*3 菊池幸工（2019.9.8）「フォーラム子どもアドボカシー」朝日新聞デジタル

*4 森本志磨子（2012）「社会的養護におけるアドボケイト制度の実現に向けて」『はらっぱ』子ども情報研究センター

9. 11月：諦める、そして創造する

6人までの社会的養護児童を養育するファミリーホーム、こどもサポートホーム運営の極意を書きます。その理由は過日、今後ファミリーホームの開設を検討されているある里親さんが見学に来られ、そのご訪問がこれまでの自分の考えを再確認するよい機会になったからです。まず、ファミリーホームを運営するに当たって、一番大切にしていることは「健康」です。自分や子どもに何かあれば、子どもへの約束が守れなくなるので、これは一番重要です。次に理念です。こどもサポートホームのスローガンは「あたたかなごはんとゆめみるみらい」です。1日1日の食事を大切にし、また、自立に繋がる生活の支援をすることが私のミッションです。しかし、自立の支援は子どもたちの「関係」が重要であり、良い関係作りには「時間」が必要です。従って高学年から一緒に暮らすなど、短期間の子どもとは、良い関係はできません。



よく講演などでは「できる」と耳にします。しかし、それは単なる理論で、一過性の出来事ならできるでしょうが、複雑な暮らしの中では無理なお話、無理は長続きしません。突然一緒に暮らすことになる私と子どもたちとは、これまでの生育歴も人生感もまるで違います。その違いから生まれる問題で、平穏な暮らしは大揺れします。甘えられない子もいれば、無警戒な子もいます。こうした子どもの特性に対応するには、子ども同士の関係、子どもとおとなの関係、おとな同士の関係、この関係の組み合わせ、「座組み」が大切になります。

安定した座組みでホーム内が構成されないと、誰かがしんどい思いをします。しんどい思いは結局長続きしません。私たちの事業は長続きさせないといけません。私の任務は24時間365日です。私人に戻れる日はなく、つい怒ったり、落ち込んだり、葛藤の連続です。しかも家族の振りをしつつ、本当の家族ではありませんから、毎日のせめぎ合いは過酷です。そこで、この過酷な毎日をどう処理するかといえば、「諦める」しかありません。

諦めるとはネガティブに聞こえますが、何かを明らかにすることで、何か新しいことが生み出せます。つまり諦めると、毎日をクリエイティブにする良い方法といえます。こうして再確認した自分の結論は、ファミリーホームの極意は「諦める、そして創造する」ことと考えました。

10. 12月：毎日新しい私になる

年をとれば取るほど怒りやすくなります。児童養護の現場で怒りは禁物です。ただし、施設職員と違って365日休みなく子どもと対峙する里親は、息抜きや気分転換ができず、ずるずる泥沼にはまります。バッドサイクルに入ると、なかなかそこから抜けられない問題点があります。さてこの泥沼、バッドサイクルをいかに自分をコントロールして、子どもの人権や意見を踏まえつつ、問題を解決するか？それはひとえに私の戦いです。「それはあかんやろ（怒）」と思っても、大きく深呼吸する、席を離れるなど、一つ間を置く工夫が必要です。



そしてなぜこの子はそんなことを言ったりしたりするのか？を分析し、その背景を共に感じます。次に意見を聞き、自分の意見を言い、改善策を見いだします。ただし、生活は瞬間瞬間に折り重なる生ものですから、後付けでそんな風に絵に書いたように振る舞えれば仏様はいません。しかし、そんな工夫を毎日重ねていると、以前よりは怒らない、昨日とは少し違う私がいます。結局怒ったところで問題は解決せず、逆に怒らない方が精神衛生上快適であり、問題は解決します。つまり問題は私にあるのです。そうやって毎日新しい私になることを新春の誓いとしました。

11. 2024年1月：子どもと「言い合い」してますか？

1月を振り返ると、大阪府立大学院の修士学位論文を執筆していました。学がない私が学位を取得する訳ですから、難解でやり甲斐のある4年間でした。社会的養護児童の意見表明を促すには美術活動もその一翼を担えるというのが私の論文の主張でした。褒められた経験が少なめたり、抑圧された経験が多かったりした子どもには、褒められたり、表現していいんだと思えたりする経験や時間が必要です。ファミリーホームでそうして子どもを育てていると、おとなにとってはとんでもない討論というか、言い合いになることがあります。



先日もどう考へても子どもに非があるのに、屁理屈をこね回し、決して自分の非を認めないことがありました。最初、演技も込めて大きな声を出したのは、子どもの人権を学んでいる割に鍛錬が足りないと猛省しました。この点は反省ですが、そんなことで怯む子どもではありません。途中からは、よしもと新喜劇並みの自分勝手にあきれ果て、笑けてしまいました。ただ良いなと思ったのは、何を言っても身の危険はないと安心して、屁理屈をこねる子どもの余裕の表情でした。結局、おとなが何らかを結論づけた訳ではなく、双方の意見は食い違ったまま話は終わりました。

私の子ども時代はよく叱られたり、おとなになってからは実子をよく叱りました。そんな私にとって、曖昧な結果は釈然としないものでした。スタッフも「子どもに間違った成功体験を与えたのでは」との危惧がありました。子どもの意見表明を考えるとき、おとの対応が重要です。生活の全ての場面で主導権を握るのはおとなですから、子どもが意見表明をしたとき、それを結論づけるのもおとなのです。生煮えで歯がゆいため、あるいは討論に勝ちたいため、どうしてもおとの結論づけを子どもに押し付けたくなるし、子どもはそれを受け取るしかありません。

でも討論をしていると、相手のとんでもない意見の根元が何なのかはよく見えてきます。それは子どもも同じで、おとなが何を言わんといっているかは、多分勘づいてくれたでしょう。私は子どもの主張に納得はできませんでしたが、子どもから見える世界感の理解はできました。子どもも納得はしませんでしたが、恐らく私の意見の理解はできたようです。その証拠に次の日から改めた行動を示してくれました。釈然としない終わり方でしたが、それで良かったと思います。いずれにしても、子どもとの対話の時間は労力がいりますが、大事なことだと思います。

12. 2024年2月：社会福祉学修士の学位を授与されました。

思い返せば、里子の大反対や他の里子の後押しを経て、2020年に入学した大阪府立大学大学院。あれから4年の月日を経て、晴れて社会福祉学修士の学位を授与されました。お世話になった先生方、そして反対も賛成もしてくれた里子、スタッフに改めて感謝しています。修士論文に関しては改めたい気持ちが募ります。しかし、この4年間の学びで、これまで考えもしなかった「美術と対話による社会的養護児童の支援」という観点を得ました。このワークショップの開発と普及を今後の私の使命として、終わらない修士論文を描き続けるつもりです。



そもそも私は、研究計画書の段階から研究自体を諦めようとしていました。そんなときに指導教員の伊藤嘉余子先生が送ってくださった「続けた人」の詩は、今も机上で私の行く末を照らす道標です。先生の励ましやご指導がなかったら、この学位は得られませんでした。学位授与式の祝辞で吉武信二先生は「福祉は社会の幸福を追求するものだが、その中にあなたの幸福も加えてください」と仰いました。その通りです。施設や里親宅で暮らす子のためだけでなく、私の残りの人生も幸せなものにしたいです。先生方、子どもたち、ありがとうございました。

13. 2024年3月：その場にしかない感動が子どもの成長を促す

子どもサポートホーム、春の旅行は岡山・香川へ行きました。倉敷の大原美術館、金比羅宮の1368段、讃岐うどん巡りをして、海の見えるコテージに泊りました。海を眺めながら温泉に入って、テラスでBBQを楽しんで、出てきた虫にきゃーきゃー言って、非日常を体験しました。シリアルな日々を過ごしてきた子どもたちにとって、それとはまったく違う出来事を体験することは、心の成長に欠かせないと考えています。空とか、海とか、光とか、風とか、そんなその場でしか体験できない感動が心に響き残ることを期待しました。



14. まとめ

こうして2023年度1年を振り返ると、子どもの問題行動の対応に焦燥し、何とか解決法を見いだそう悪戦苦闘する自分の姿が見て取れます。今となっては間違っていること、忘れていること、様々な事実が浮かび上がります。しかし、1年を経た今となっては、手前味噌ながら随分成長したと思います。結局の所、問題行動はその子に問題があるのではなく、私にとって問題がある訳です。いくら自分の基準に合わせて相手を変えようと思っても、変わる訳がなく、無駄な時間と心労が増えるばかりです。それよりも自分の基準を下げたり、動かしたり、あれこれ工夫するしかないのです。

児童養護の世界に身を置いて、そもそも他者理解をしようとも思ってこなかった私が、随分と相手を理解する人間になっていると思います。児童養護とは、まるで修行のような人間形成の営みです。仏様は随分と私を試されていらっしゃるのだと思います。思い返せば、グラフィックデザイナーの経験を活かして、親と暮らせない子どもを支援するNPO法人子どもデザイン教室を立ち上げました。そして、その延長線上から里親になり、この子どもサポートホームを立ち上げました。こうした経験を通して、自分自身の人間形成ができるなんて、考へてもいませんでした。人生の後半でこんな機会に巡り会えたこと、今の子どもたちと暮らせていることに、深く深く感謝しています。

2023年度 決算報告書

1. 決算報告書

2023年度 決算報告書

2023年4月1日～2024年3月31日			特定非営利活動法人子どもデザイン教室		
収入の部			支出の部		
	予算	決算		予算	決算
前期繰越金	11,615,452	11,615,452	1 販売管理費		
			役員報酬	1,536,000	1,536,000
1 会費収入			給料手当	308,000	201,159
会員受取会費	2,420,000	2,425,370	法定福利費	305,000	217,423
			外注費	385,000	48,070
2 事業収入			荷造り運賃	0	1,790
子どもデザイン基金事業	300,000	212,150	会議費	31,000	37,071
			旅費交通費	57,000	3,560
3 補助金収入			通信費	235,000	238,992
補助金・助成金	0	463,000	消耗品費	328,000	597,346
			事務用品費	87,000	0
4 寄付金収入			修繕費	0	55,550
寄付金	2,080,000	2,218,824	画材費	186,000	265,946
			水道光熱費	140,000	122,963
5 販売会収入			新聞図書費	9,000	45,514
売上金	70,000	95,616	諸会費	14,000	8,875
			支払手数料	93,000	92,372
			地代家賃	990,000	990,000
			賃貸料	20,000	74,626
			保険料	47,000	16,660
			租税公課	47,000	70,000
			支払報酬料	165,000	165,000
			支援基金費	157,000	95,430
			寄付金	0	155,000
			減価償却費	232,000	355,021
事業収入合計	4,870,000	5,414,960	販売管理費合計	5,372,000	5,394,368
			営業損益金額	-502,000	20,592
6 営業外収益			2 営業外費用		
雑収入	0	0	雑支出	0	0
受取利息	0	72	支払利息	0	0
営業外収益合計	0	72	営業外費用合計	0	0
			経常損益金額	-502,000	20,664
			当期純損益金額	-502,000	20,664
			次期繰越金	11,113,452	11,636,116

上記のとおり相違ありません。

2024年5月31日

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
監 事 畠山佳之

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
代表理事 和田 隆博

2. 貸借対照表

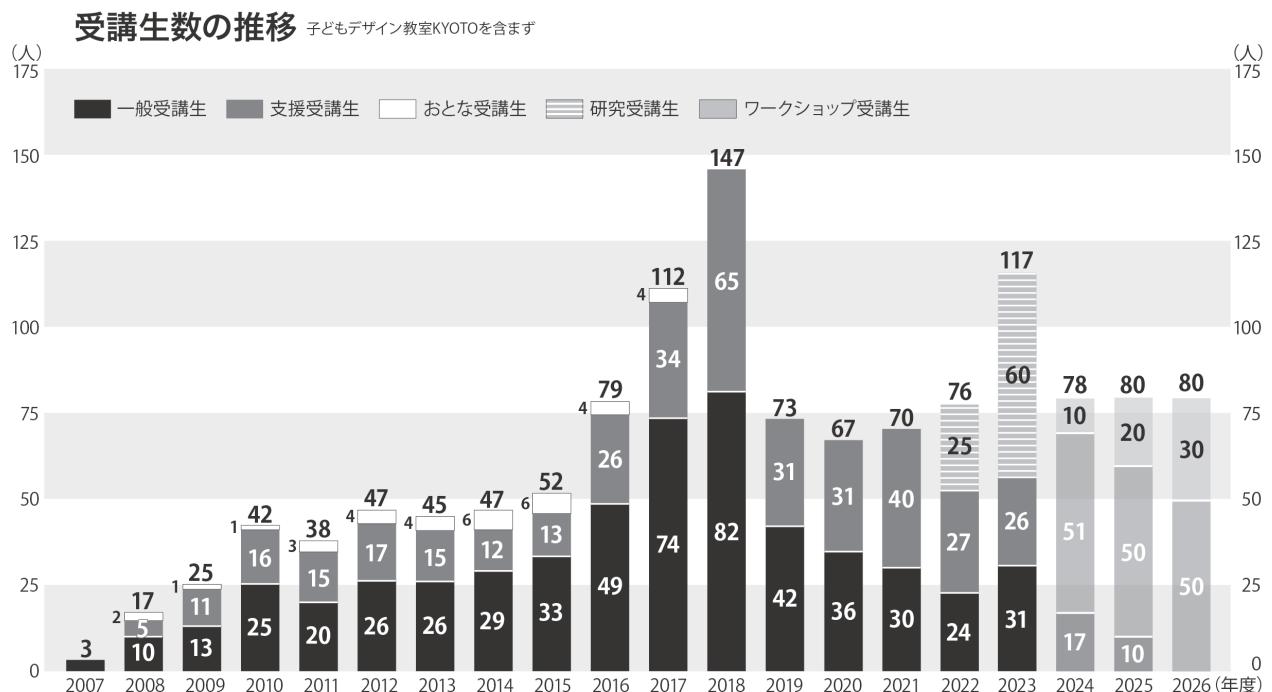
2023年度 特定非営利活動に関わる事業会計の貸借対照表

2024年3月31日現在		特定非営利活動法人子どもデザイン教室	
科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
小口現金	59,956		
当座預金	2,454,012		
普通預金	8,466,320	10,980,288	
未収入金	195,150	195,150	
仮払金	61,140	61,140	
流動資産合計		11,236,578	
2 固定資産			
建物附属設備	179,351		
工具器具備品	564,727	744,078	
固定資産合計		744,078	
資産合計			11,980,656
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	319,414		
預かり金	25,126	344,540	
流動負債合計		344,540	
2 固定負債			
長期借入金	0	0	
固定負債合計		0	
負債合計			344,540
III 正味財産の部			
繰越利益			11,615,452
当期純損益金額			20,664
正味財産増加額合計			11,636,116
純資産合計			11,636,116
負債及び正味財産合計			11,980,656

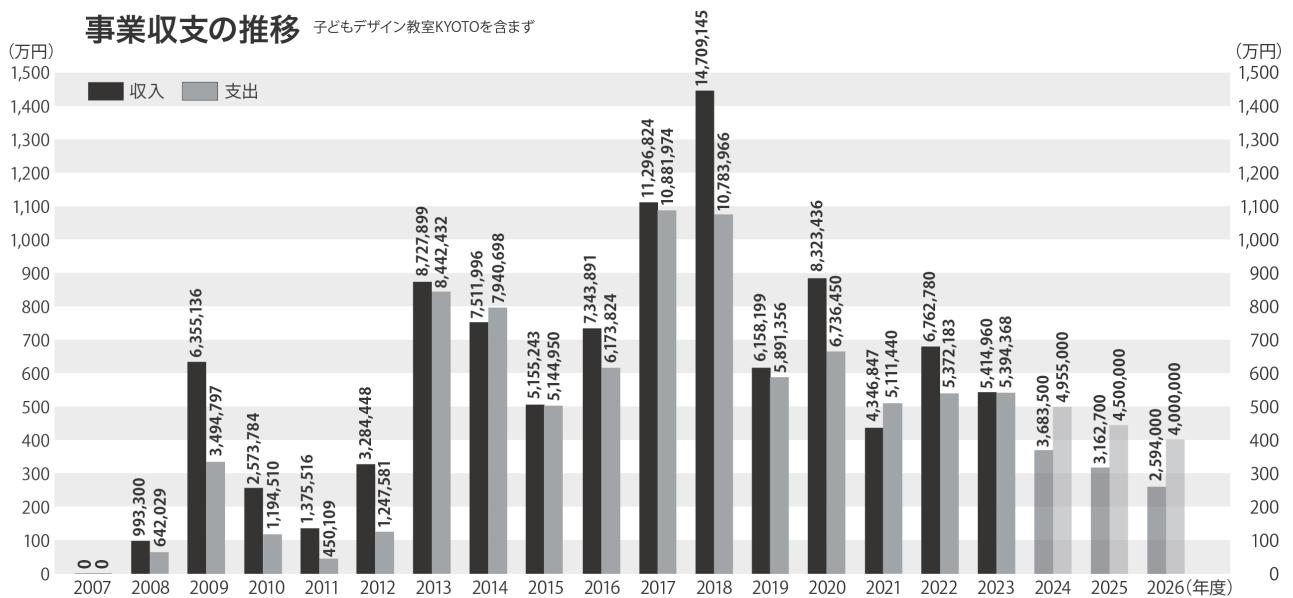
2023年度 その他事業会計の貸借対照表

2024年3月31日現在		特定非営利活動法人子どもデザイン教室	
科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産		0	
流動資産合計		0	
2 固定資産		0	
固定資産合計		0	
資産合計		0	
II 負債の部			
1 流動負債		0	
流動負債合計		0	
2 固定負債		0	
固定負債合計		0	
負債合計		0	
III 正味財産の部			
繰越利益		0	
当期純損益金額		0	
正味財産増加額合計		0	
純資産合計		0	
負債及び正味財産合計		0	

3. 受講生数の推移



4. 事業収支の推移



2024年度 活動計画書

学びの支援：子どもデザイン教室

主幹：和田隆博／久保 晶・出口奈津子・島津侑花・植野明日香

1. 事業概要

2007年の創設以来、2024年度で子どもデザイン教室は創設18年目になります。2024年度は前年度に引き続き、作品を製作することで自己表現力を高める「絵と工作レッスン」と、商品を製作・販売することで自己肯定感を高める「こどキャラレッスン」の2つのレッスンを実施します。加えて、大阪府立大学院での研究成果を活かした新ワークショップ「手作りとお喋りの時間」を始めます。これは創作活動によって社会的養護児童の意見表明を促進する新たな試みです。

また、子どもデザイン教室の次世代チームによる「デザイン国語」、2023年度に開店した2号店「子どもデザイン教室KYOTO」も精力的にレッスン・ワークショップを実施し、その成果を学会・講演会で発表します。こうして次世代への移行を引き続き実行してまいります。

2. 絵と工作レッスン

(1)実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間＝4月27日～2025年3月15日
- ・土曜第1・2・3週クラス＝12：30～15：30（月1回）
- ・受講の目安＝年長児～中学生
- ・月会費＝各5,500円（社会的養護児童は無料）・年会費＝3,000円



(2)実施内容

- ・5月＝Tシャツを作ろう
- ・6月＝おでかけバッグを作ろう
- ・7月＝水族館で遊ぼう
- ・8月＝工作 ゲームを作ろう 前半
- ・9月＝工作 ゲームを作ろう 後半
- ・10月＝ハロウィンクッキーを作ろう
- ・11月＝キャラ弁を作ろう
- ・12月＝クリスマス会
- ・2025年1月＝工作 好きなものを作ろう 前半
- ・2025年2月＝工作 好きなものを作ろう 後半
- ・2025年3月＝発表会 おとなも絵と工作レッスン

(3)実施主旨

レッスンの狙いは、自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てることです。毎月1回土曜午後の3時間、絵や工作などの造形作品を創作することで、作ることの楽しさを経験します。また、完成させる力や発表や仲間との協力など、困難を乗り越える力も身つけます。お弁当一緒に食べて親交を深めたり、ゲームをしたりもします。買い物など持参でご参加頂きます。

3. えとこうさくレッスン

(1)実施要項

- ・「絵と工作レッスン」のさらに初心者向きの取り組みやすい内容で、自己肯定感を高め、自分を表現する力を育てます。作品を作ることの楽しさを体験します。
- ・期間＝4月20日～2025年3月30日
- ・土曜・日曜第4週クラス＊＝14：00～15：30（年6回）
＊実施日は施設と相談の上、決定。
- ・受講の目安＝年長児～中学生
- ・月会費＝社会的養護児童専用につき無料・年会費＝3,000円



(2)実施内容

- ・5月・6月=色画用紙で遊ぼう
- ・6月・7月=クレヨンで遊ぼう
- ・7月=水族館で遊ぼう
- ・8月・9月=ゲームで遊ぼう
- ・2024年1月・2月=好きなものを作ろう 前半
- ・2024年3月=好きなものを作ろう 後半



(3)実施主旨

社会的養護児童は自己肯定感が低い傾向にあるため、挑戦することをためらったり、結果を恐れたりすることがあります。このため、従来の「絵と工作レッスン」では、受講が困難な社会的養護児童でも、安心してレッスンが楽しめるように、レッスン内容を初心者向きに作り替えました。また、より多くの社会的養護児童がレッスンを受けられるように、実施日を各児童養護施設専用としました。受講生を特定せず、誰でも、1回でも、全回でも自由に受講出来るようにし、引率が難しい場合は、施設での実施も可能です。このように自由度を高めたレッスンスタイルで、より多くの社会的養護児童が受講可能ないように工夫しました。

4. こどキャラレッスン

(1)実施要項

- ・自己肯定感を高め、自分を主張する力を育てます。商品を作り、販売する楽しさを経験します。
- ・木曜クラス=17:30~19:00 (月4回)
- ・目安=小学3年生~高校生
- ・月会費=11,000円 (社会的養護児童は無料) ・年会費=3,000円



(2)実施内容

- ・5月=キャラクターをデザインしよう
- ・6月=フィモ粘土でデザインしよう
- ・7月=アクリル毛糸でデザインしよう
- ・8月=レジンでデザインしよう
- ・9月=絵本のプレゼンをしよう
- ・10月=絵本のプレゼンをしよう・お菓子をデザインしよう
- ・11月=発表会 言葉で描く絵本の世界・絵本をデザインしよう
- ・12月= 絵本をデザインしよう・キャラ弁をデザインしよう・クリスマス会
- ・2024年1月=オリジナル商品をデザインしよう
- ・2024年2月=オリジナル商品をデザインしよう
- ・2024年3月=オリジナル商品をデザインしよう・発表会 こどカフェ&ショップ



(3)実施主旨

オリジナルキャラクターをデザインし、それをピンバッジ、マスコット人形、アクセサリーのキャラクター商品にします。それを3月に子どもデザイン教室で開催する「こどキャラショップ&カフェ」で自ら販売し、おこづかいにします。ほかにも11月には自分のお薦めする絵本をプレゼンテーションすることで、意見表明の練習をする発表会「言葉で描く絵本の世界」を開催します。遊び感覚で自己肯定感を高める社会体験型のレッスンです。

5. 手作りとお喋りの時間

(1)実施要項

- ・おとなと子どもがペアになり、絵や工作をしながら会話を楽しむことで子どもの意見表明力を育てます。
- ・月曜・火曜・水曜実施=約1時間 (適宜実施)
- ・目安=小学3年生~成人
- ・月会費=社会的養護児童は無料・年会費=社会的養護児童は無料



(2)実施内容

平日のご都合のよい時間に里親宅や児童養護施設にお伺いして、絵や工作をしながら会話を楽しめます。おとなは「どうしたの？AとBならどっち？なぜ？」と基本的に3つの質問をするだけ、傾聴に努めます。子どもは絵や工作をしながらおとのんの問いかけに答えます。進行はファシリテーターの和田隆博がします。おとなは子どもの話の中から普段抱えている課題や要望を発見し、今後の養育に役立て、また、子どもは自分の気持ちを伝える力を育みます。

(3)実施主旨

社会的養護児童が毎日の暮らしの中で求めているものは、その子の軸となる保護者との関わりです。この保護者との関わりは、児童精神医学者のボウルビィがアタッチメント理論で提唱するように、どこかで満たされるものではなく、永遠に求め続ける情緒的な繋がりと言われています。そこで、子どもデザイン教室では、そうした保護者との関わりの時間を提供するワークショップが必要と考えました。それが「手作りとお喋りの時間」です。

このワークショップに絵や粘土などの創作活動を用いる理由は「アートという視覚言語を媒体に用いるため、自分の気持ちをうまく言葉で表現できない子どもや高齢者にも、感情表現とコミュニケーションの手段として導入できる＊」からです。これまで何回、この「手作りとお喋りの時間」を実施してきましたが、いずれもおとなからも子どもからも高い評価を得ています。今後は、児童養護施設や里親宅においてこの「手作りとお喋りの時間」を増やし、社会的養護児童の意見表明の促進に寄与したいと考えています。

*関則雄（2016）『臨床アートセラピー—理論と実践—』日本評論社より

6. 2024年度の計画

(1)レッスン日数=100日／2023年度105日／2023年度比95%

(2)レッスン回数=102回／2023年度149回／2023年度比68%

(3)受講人数=68人（一般家庭児童17人・社会的養護児童51人）／
2023年度117人／2023年度比58%

(4)受講延べ人数=553人（一般家庭児童187人・社会的養護児童366人）／
2023年度1,125人／2023年度比49%

(5)満足度（5段階評価で4以上の割合）=100%／2023年度99%／
2023年度比101%

(6)収入（会費収入）=1,270,500円／2023年度2,425,370円／2023年度比52%

*2024年度の「手作りとお喋りの時間」は、試験段階のため含めず。



学びの支援：デザイン国語チーム・子どもデザイン教室KYOTO

主幹：伊藤嘉余子・藤井健志・井上翔一

1. レッスン・ワークショップ

子どもデザイン教室KYOTOでは2024年度、京都市の東山母子生活支援施設で定期レッスン「へんてこキャラクターをデザインしよう」を年6回実施します。



2. 学会発表・講演会

5月18日にCAPセンター・JAPAN公開セミナー「子どもたちの今。そして、これから。2024」で「子どものアドボカシー支援のためにー自己理解と他者理解を往還するデザイン国語ー」を実施します。子どものセルフアドボカシーカーを支援するためのデザイン国語の取り組みをご体験頂きます。そして11月30日・12月1日に日本子ども虐待防止学会「JaSPCANかがわ2024」で2024年度もデザイン国語のシンポジウムをします。2018年から7年連続の報告です。2024年度は「福祉×国語×デザイン「デザイン国語」による「助けて」のデザインとセルフアドボカシー支援」の研究成果を伊藤嘉余子先生・藤井健志先生・井上翔一先生が発表します。

このように2024年度も学会発表や講演会、ホームページ・FacebookなどのSNSを通して、デザイン国語の啓発活動を精力的に続けてまいります。さらに関係各所よりご要望の多い書籍化にも着手してまいります。

1. 子どもデザイン基金事業

子どもデザイン基金事業は、企業様・団体様・個人様との協同による資金支援事業です。福祉型キャラクタービジネス「こどキキャラ」の実施、企業様との協同、活動説明会「こどカフェ」の実施、賛助会員「キッズソポーター」の募集をし、2024年度も暖かいご寄付・ご寄贈・ご支援を期待しています。

2. ご寄付部門

(1)企業寄付

企業様・団体様13社様より77.4万円のご寄付を計画しています。

(2)個人寄付

年会費会員68名様より20.4万円、個人寄付会員30名様より19.1万円、継続会員20名様より64.4万円の合計181.3万円のご寄付を計画しています。このため、6月に2023年度報告書・2024年度計画書（本紙）を150通手渡し・郵送の予定です。

(3)会員数=個人118名様・法人13社様／2023年度 個人121名様・法人14社様／2023年度比97%

(4)収入（寄付金収入）=1,813,000円／2023年度2,218,824円／2023年度比81%

3. 助成金部門

(1)助成金

子どもデザイン教室KYOTOとしての助成金申請は2024年度は丸紅基金助成金111万円に応募する予定です。

(2)収入（補助金収入）=1,110,000円／2023年度300,000円／2023年度比703%

助成金は応募中のため、2024年度予算書には未計上です。

4. こどキキャラ部門

(1)こどキキャラ

こどキキャラは個人様・法人様と協同して、社会的養護児童の自立・事業資金を創出する福祉型キャラクタービジネスです。2024年度もご依頼を頂いたイラストを子どもデザイン教室に通う子どもたちと制作し、主に子どもたちの自立資金、当法人の運営資金に充当する予定です。2024年度は里親支援機関の結い様と協同して、里親啓発のためのポスターなど、印刷物を製作する予定です。

(2)収入（事業収入）=550,000円／2023年度212,150円／2023年度比259%

(3)内訳=自立資金137,500円・事業資金412,500円（販売管理費を含む）

5. 企業協賛部門

(1)大阪東ロータリークラブ様・大阪中之島美術館様

2024年度も2023年度に引き続き、大阪東ロータリークラブ様にご支援を頂く予定です。2024年度は9月と2025年2月に「大阪中之島美術館ラーニングプログラム」に社会的養護児童をご招待する予定です。これは大阪中之島美術館で開催される「TRIOパリ・東京・大阪モダンアートコレクション」を鑑賞し、鑑賞後はワークショップ会場で創作アートを楽しみ、想像力を高めることができるプログラムです。



6. ご寄贈部門

(1)ご寄贈

フードバンク大阪様を始め、10名の方からお菓子や画材のご寄贈を頂く計画です。

(2)収入=150,000円相当／2023年度131,520円相当／2023年度比114%

7. 理事会・広報部門

(1)理事会

2カ月に1回、理事会を実施し、中期・長期計画を話し合います。

回数=6回（総会を含む）／延べ参加人数=40名／2023年度37名／2023年度比108%

(2)こどカフェ

子どもデザイン教室の活動内容、社会的養護児童の問題、意見表明と創作活動の因果関係などをお話しする活動説明会リアルこどカフェを実施します。ご来場の皆様にミックスジュースを振る舞い、対面で和やかな雰囲気でお話しするリアルなカフェスタイルで楽しみたいと思います。

回数=6回／延べ参加人数=10名／2023年度9名／2023年度比111%

(3)ホームページ

2020年度より遅々として進まなかったホームページの改訂作業ですが、2024年度は新たなボランティアスタッフのご支援を得て、ようやく改定作業に取りかかれる予定です。

(4)広報

Facebook・Instagram・X・LINEなどのSNS、ホームページ、ニュースメールを通じて子どもデザイン教室の活動を紹介します。ニュースメールは毎回約400通の配信を予定し、約60%以上の開封率をめざします。

暮らしの支援：こどもサポートホーム

主幹：和田隆博／三木友紀子・山口杏子・和田 幸

1. 子どもサポートホーム事業

6年目を迎えたファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）。5人の社会的養護児童を養育しています。2024年度も2023年度に引き続き、①健康と安全、②生活全般、③学習・運動・余暇、④人間関係と社会性の構築、⑤過去や実家族、⑥自立の支援、⑦職環境の整備、⑧次世代への継承といった8つの課題に取り組みます。

2. 日々改善を続ける8つの課題

2018年から始まったこどもサポートホーム事業（以下ホーム）。立ち上げ当初の子どもの気持ちに寄り添えなかった反省から、研修と実践を重ね、年々改善を続けています。特に2022年度より実践している「子どもの立場に立って考える」は、恥ずかしながら、これまで疎かにしてきた知見です。こうした多くの経験を踏まえ、現在の課題を以下のように整理しました。

①は健康と安全です。これはホームに関わる全ての人の最優先事項です。特に安全は予防的危機管理と発生時の緊急対応措置を考え、未然の防止と経験を次の予防的危機管理に活かします。②は食生活・睡眠・衛生・衣服などの生活全般です。食事に関しては高いレベルを日々維持しています。実子を育てたときと同じような養育基準を常に意識します。③は学習・運動・余暇です。教科学習の強化に偏重した教育には疑問です。できるだけ多くの経験を積むために年3回の旅行、自然や文化体験、塾・習い事、クラブ活動など、本人の意向を踏まえ、バランスの良い教育を考えます。④は人間関係の構築です。同居する子ども同士を始め、友人・おとな、地域・社会との健全な関係を築きます。また、社会性の構築です。他者理解と自己理解を往還し、自己形成・自己実現ができるよう、人・モノ・時間を大切にすることを教えます。⑤は過去や実家族との問題です。どの子どもも過去や家族と対峙しています。血縁という絶ちがたい課題にどう向き合うのか、その選択と判断を支援します。⑥は自立の支援です。自立の支援はもとより、自立後もホームが実家機能となるように配慮をします。⑦はホームで働く人全ての職環境の整備です。共に長く健やかに働ける環境作りをします。⑧は次世代への継承です。私たちおとなには、子どもたちの平和な毎日と社会に送り出す責任があります。特に和田隆博代表に万一のことがあったとき、どう次世代に継承するのか？は重要な課題です。

以上、このような複雑な課題に対して、毎日の実践と研修を重ねて、日々改善に務めてまいります。



1. 子どもデザイン教室の中期・長期計画

2023年度に発表した中期・長期計画では、次の4点をお約束しました。それは、①社会的養護児童事業に集中するための「一般家庭児童レッスンの縮小と社会的養護児童レッスンの拡大」、②社会的養護児童の意見表明とおとの傾聴姿勢を育てるための「新しいワークショップの実施」、③セミナー・体験レッスンの実施、レッスンコンテンツの販売、書籍化や動画配信などの「普及活動の実施」、④伊藤嘉余子先生・藤井健志先生・井上翔一先生のデザイン国語チーム、2号店の子どもデザイン教室KYOTO、この2つの事業に代表される「次世代への移行」の4点です。



2024年度もこの中期・長期計画を引き続き具体的に実行していきます。①は「こどキャラレッスン」「絵と工作レッスン」のレッスン数の縮小と児童養護施設専用の「えとこうさくレッスン」の新設を実施します。しかし、縮小するレッスンは、いずれも社会的養護児童が受講しているため、すぐには終了しない予定です。ただし、肩の力を抜いて最後のレッスンをゆったりと楽しみたいものです。②は社会的養護児童向けの無料ワークショップの「手作りとお喋りの時間」を実施します。③は施設職員・里親向けの有料セミナーの「手作りとお喋りの時間」を実施します。④は伊藤先生・藤井先生・井上先生、三氏の次世代メンバーによる精力的な活動が見込まれています。

しかし、問題は2024年度から2026年度だけでも年間127万円から140万円の赤字が想定される点です。原因は有料レッスンの縮小です。この問題を改善するために、前述③の有料セミナーの実施、内部資金の取り崩し、時間的余裕をみて寄付金のお願い、助成金の申請、こどキャラ事業の実施に取り組みます。また、2023年度の計画書でお約束した、現在の山坂事業所から代表理事の自宅である南田辺事業所への移転は一旦見送り、固定資産である山坂事業所を有効活用し、経費の削減に努めます。

以上お示しした通り、子どもデザイン教室は、①美術の機能で子どもの気持ちをおとなに届ける創作のワークショップとセミナーの「手作りとお喋りの時間」、②国語の機能で子どものアドボカシーを育てる言葉のレッスンとワークショップ「デザイン国語」、この2つの事業を精力的に推進してまいります。

2. 子どもデザイン教室にご贊助のお願い

2007年に誕生した子どもデザイン教室は、デザインレッスンとこどキャラ事業で社会的養護児童の自立を支援することを使命としてきました。しかし、2019年度からの取り組みとして、今後は社会的養護児童の意見表明とおとの傾聴姿勢を育てることを使命としていきます。そのためには教えるレッスンから共に学ぶワークショップへと活動の概念を変える必要があり、それには定款の変更をする必要があります。ただし、子どもデザイン教室に通底する想いである「遊びながら学ぶ、自己肯定感を育てる、自分デザイナー（自分の人生をデザインできる人）を育てる」はいささかも変わることはできません。

最後に本項では子どもデザイン教室の活動で、人が、地域が、日本がどのように変わらるのかをお示ししたいと思います。まずミクロレベルでは、ワークショップを実施することで、楽しみながら自分の気持ちを伝える子どもが児童養護施設や里親宅に増えています。次にメゾレベルでは、セミナーを実施することで、子どもの意見表明とおとの傾聴姿勢を大切にするおとなが地域に増えています。最後にマクロレベルでは、ワークショップやセミナーの内容を書籍化することで、子どもの人権を大切にする人が日本に増えています*。

以上が子どもデザイン教室が皆様にお約束するミッションです。しかし、こうした活動には皆様のご支援が欠かせません。ぜひ子どもデザイン教室の活動にご賛同頂き、ボランティアやご寄付など、皆様にできる範囲の形でご贊助くださいますよう、心からお願ひ申し上げます。

*文部科学省（2012）「虐待の基礎的理解」によると、虐待を招く子どもへの誤解として、子どもに対する不正確な認知、子どもの独立した人格を理解しない、子どもとは言うことを聞く生きものと考える、子どもの発達を平均以下に見てしまう、子どもに非現実的な期待をするなどの理由が指摘されています。日本では子どもの人権への理解はまだまだ不十分です。

2024年度 予算計画書

1. 予算計算書

2024年度 予算計画書

2024年4月1日～2025年3月31日			特定非営利活動法人子どもデザイン教室		
収入の部			支出の部		
	決算	予算		決算	予算
前期繰越金	11,615,452	11,636,166	1 販売管理費		
			役員報酬	1,536,000	1,536,000
1 会費収入			給料手当	201,159	201,000
会員受取会費	2,425,370	1,270,500	法定福利費	217,423	217,000
			外注費	48,070	0
2 事業収入			荷造り運賃	1,790	2,000
子どもデザイン基金事業	212,150	550,000	会議費	37,071	50,000
			旅費交通費	3,560	25,000
3 補助金収入			通信費	238,992	239,000
補助金・助成金	463,000	0	消耗品費	597,346	477,000
			修繕費	55,550	0
4 寄付金収入			画材費	265,946	212,000
寄付金	2,218,824	1,813,000	水道光熱費	122,963	123,000
			新聞図書費	45,514	0
5 販売会収入			諸会費	8,875	9,000
売上金	95,616	50,000	支払手数料	92,372	92,000
			地代家賃	990,000	990,000
			賃貸料	74,626	0
			保険料	16,660	17,000
			租税公課	70,000	70,000
			支払報酬料	165,000	165,000
			支援基金費	95,430	50,000
			寄付金	155,000	125,000
			減価償却費	355,021	355,000
事業収入合計	5,414,960	3,683,500	販売管理費合計	5,394,368	4,955,000
			営業損益金額	20,592	-1,271,500
6 営業外収益			2 営業外費用		
雑収入	0	0	雑支出	0	0
受取利息	72	0	支払利息	0	0
営業外収益合計	72	0	営業外費用合計	0	0
			経常損益金額	20,664	-1,271,500
			当期純損益金額	20,664	-1,271,500
			次期繰越金	11,636,116	10,364,666

上記のとおり相違ありません。

2024年5月31日

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
監 事 畠山佳之

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
代表理事 和田 隆博

2023年度 活動報告書・2024年度 活動計画書

2024年7月1日 第2版発行

発行者：和田 隆博

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1

TEL 06-6698-4351 · FAX 06-6698-4352

MAIL wada@c0d0e.com · URL c0d0e.com

©2024 Children Design Education